

2013 年度報 富山地震防災研究会

■ 目次

| | |
|-----------|-------|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. 活動記録概要 | 1 |
| 3. 第6回定例会 | 2 |
| 4. 第7回定例会 | 3 |
| 5. おわりに | 3 |
| | end=3 |

1. はじめに

本会が昨年 11 月にスタートして新年度に入り、無事年度末の定例会を終えましたので、13 年度版の本報告書をつくりました。

はやいもので、最初は 5 人からのスタートでしたが、回を重ねるに従い参加者が増え、今では 10 人超えです。知的好奇心旺盛な方は少なくないということが実感した次第です。

さて、二年目の活動では、毎回の定例会、そして特別企画もあり、盛りだくさんに充実していたと思っております。また、皆様方は皆様方各自の分野でご活躍をされておられること嬉しい限りです。

二年目の会報では、そうした活動をも含めて記事をまとめました。手作りの会報ですので、至らないところは多々あるかとは存じますが、皆さん、よろしくお願いたします。

2. 活動記録概要

- ・第1回、4月25日(木)、17h~19h、参加*人
川崎先生：「富山の地震、その2」
14年3月セミナーの続き。
- ・第2回、5月30日(木)、17h~19h、参加*人
富樫先生：「微動とその利用、建物と地盤」
微動は結構優れものとのこと。
振動障害については裁判の話まで討議
- ・第3回、6月20日(木)、18h~20h、参加*人、
富樫先生：続「微動とその利用、建物と地盤」
大氏先生：自作の建築作品

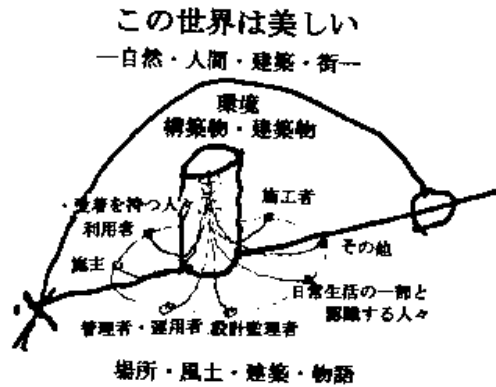
- ・第4回、7月18日(木)、18h~20h、参加*人
田藏先生：「杭基礎の耐震問題に関する一連の研究」
- ・第5回、8月12日(月)、18h~20h、参加*人
田藏先生：「杭基礎の耐震問題に関する一連の研究」
- ・第6回、9月25日(水)、18h~20h、参加*人
坂井先生：「もの見方と考え方」
氏の「人のまねをしない、風下に立たない」
の考えや地震断層の話
- ・第7回、11月7日(木)、15h~16h30、参加*人
川崎先生：富山の地震について、
富山近代美術館移転地の災害危険度について
富山の活断層と地震、
ならびに美術館移転先の水害・震害について
- ・特別企画；富山市副市長神田氏との意見交換会
12月24日(火)10h~13h15（昼食会込み）、
富山市庁舎会議室、4人参加
富山の地震災害・風水害について
- ・第8回、12月26日(木)、16h30~18h30、参加12人
岩脇先生：伝統木造建築について
中崎先生：非破壊試験について
若手の両氏、エネルギーに語る。
懇親会；場所をかえて第二ラウンド、
18h50~21h30、参加8人
- ・第9回、1月27日(月)、18h~20h、参加9人
大氏先生：「社会・建築・都市と政策」、「構造と木材」
建築の社会性についてするどく論評。
木造の可能性についても言及。
- ・第10回、2月13日(木)、18h~21h、参加*人
伊藤先生、古谷先生の各研究室の学生諸君
若者の出番。彼らは恐れを知らずに挑戦。
- ・第11回、3月28日(金)、18h~20h、参加*人
堺(純)先生、「地盤調査」
地盤調査の豊富な体験から地盤について。
坂井(修)先生、「史跡指定解除について」
高岡市弓の清水史跡の指定解除に向けた取組み

- ◆扱ったテーマ、分類 数字は扱い回数
地震防災；地震2、地震水害
地盤；微動2、基礎2、非破壊試験、地盤調査
建築；築デザイン、伝統木造2、構造設計
文系；思考・アプローチ、社会・都市政策、史跡

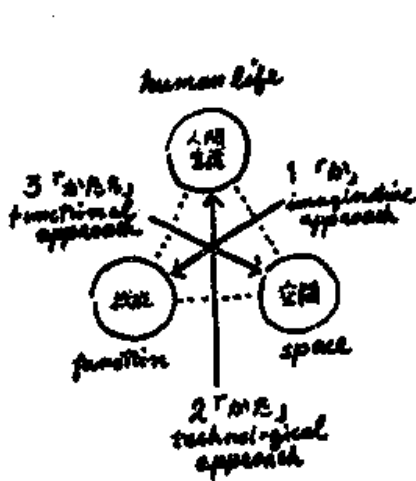
3. 第6回定例会 13年9月25日

坂井修一先生：「ものの見方と考え方」

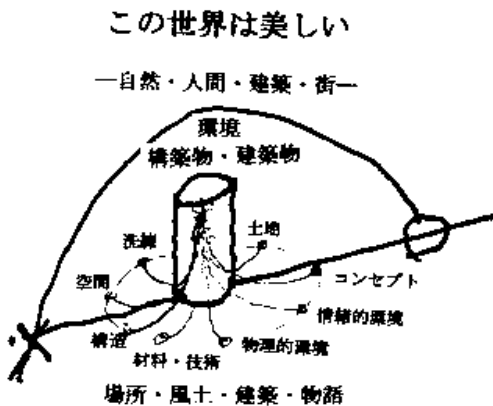
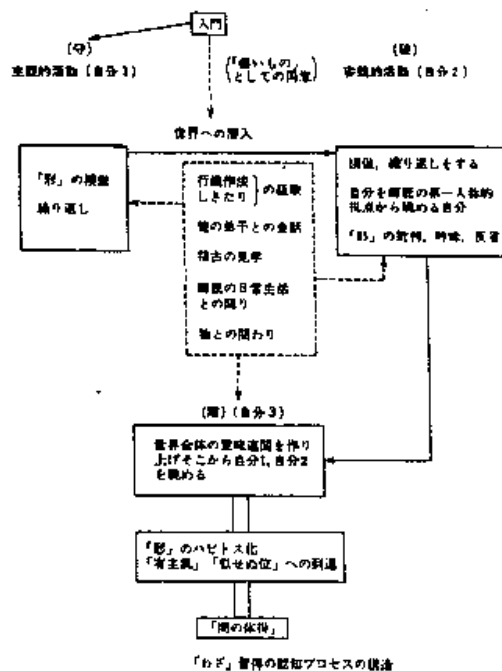
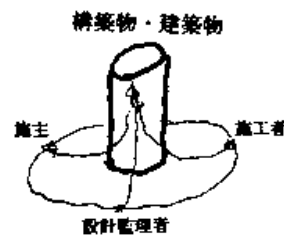
氏の「人のまねをしない、風下に立たない」
の考えや地震断層の話



27 デザインの方法論



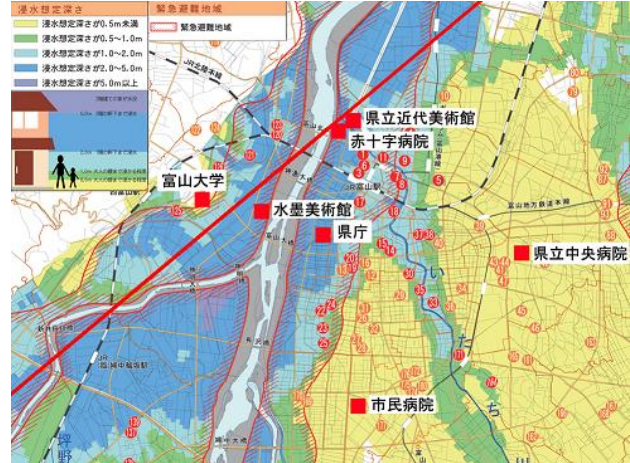
設計の三段階構造



4. 第7回定例会 13年11月07日

川崎一朗先生：

「富山の地震 および富山近代美術館移転地の災害危険度」



近代美術館の移転について、掛尾から環水公園にまで移転で設計プロポーザルがおわり、新幹線開業に向けて急ピッチでことが進んでいる。しかし、防災の面から、立地場所が環水公園でいいのかどうか、検討が不十分といえる、と問題的記され、次のように各論に入っておられた。

(1) 地震断層

呉羽断層は呉羽山から北東に向かい、富山日赤病院付近を通って海へとつながっている。近代美術館立地場所にもかかると推察される。

(2) 水害

地震によっても水害が発生することは大いに懸念される。神通川の護岸は日赤病院のもちものである。それも含めて大いに検討検討すべきである。

討議では、日赤病院そのものの水害対策が必要とか、新近代美術館の設計だけでどの程度の水害を防止するのか、設計対応が来ているのか、など活発な議論が続いた。

5. おわりに

皆様方、今年度もおつかれさまでした。
次年度もステップアップできればと思っております。